

## 綱渡りの100周年記念館建築



図は、富士見町の100周年記念館の第Ⅰ期工事の外観デザイン画である。本館の北西側（飯田橋駅寄り）の用地に、本館と並んで地上7階・地下2階の新棟を建てるプランであった。じつは、状況によっては、私は図のⅠ期棟だけで終わることを覚悟していた。

というのは、早稲田通りに面したⅡ期棟の建築予定地内に、他人様のビルが建っていたからである。店舗と居宅の雑居する7階建の平たいTビル—わずか55㎡（16余坪）だったが、この鼻先の建物が買収できない限り、Ⅱ期棟は建てられない。地階には、私どもも利用した喫茶店「ローズ」が営業していた。

当時、飯田橋駅前の附属病院棟は狭隘なため、臨床系講座を移転する必要に迫られていた。そこでやむなく新築工事をⅠ期とⅡ期にわけて、Ⅱ期の予定がたたぬまま、平成15年（03）2月、早稲田通りから奥半分のⅠ期工事に見切発車した。

じつは、Tビルとの買収交渉は、内々に法人事務局の高橋慎一事務局長が当たっていた。すでに、前年の新棟設計段階の6月には、本学は代替用地として、旧5号館（大学院棟）の4割をTビル側に等価交換すると提案していた。むろん、相手様の都合も事情もあるので、当方の一方的な交渉は難航した。

Ⅰ期棟は臨床講座関係が入るから、当初の目的は達せられる。Ⅱ期棟には、旧2号館の図書館はじめ、教室、九段ホールが予定されていた。工事がⅡ期に移るまでにTビルを取得できねば、工程は中断または断念せざるを得ないことになる。

そんな懸念をよそに、Ⅰ期工事は着々と概観を現していく。私はジリジリと、高橋局長たちの粘りづよい交渉を待った。私が焦ったのは、代替が決まっても、そこにTビルを新築しなければ移転できないからだ。その6階建て工事には、7ヵ月を要する…。

紆余曲折の末、ようよう平成15年（03）12月に売買契約を取り交わした。翌年8月には、19ヵ月かけたⅠ期棟が竣工し、11月には2期棟に着工する。一方、翌年5月にTビル側は、目前にⅡ期工事を仰ぎながら代替地に着工し、12月に新Tビルを竣工させた。

あわただしく本学は、旧Tビルを解体し、そのまま予定どおりⅡ期工事をすすめた。Ⅱ期工事が、早稲田通りへむけて2/3まで進捗する瀬戸際であった。

創立100周年の平成18年（06）5月、19ヵ月かけてⅡ期棟は竣工する。プランから4年、綱渡りのような100周年記念館の建築であった。